

2023年8月6日（主イエス変容の日、A年）

牧師メッセージ

「そこにはイエスだけがおられた。」

（ルカによる福音書 9:28-36）

司祭ヨセフ太田信三

モーセは律法を、エリヤは預言者を代表し、二人で旧約聖書を象徴していると言われます。その二人と主イエスが山上にて、「イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最後について」話しをしています。ここで「最後」と訳されているのは「エクソダス」という単語です。聖書でエクソダスといえば出エジプト記のタイトルで、「脱出」という意味をもちます。今日の箇所では、エクソダスは主イエスの最後、つまり十字架の出来事を表しています。それにしても、なぜ十字架上の死が「脱出」なのでしょう。それは、十字架上の死は終わりではなく、復活、昇天、聖霊降臨へと続いていく出来事であり、主イエスの死と復活によって、わたしたちに死から解放された命への道が開かれるからです。そして、死が絶望の象徴ならば、復活とは、どんな絶望の先にも必ず希望があることの約束に他ならないからです。三人が語り合っていた、「エルサレムで遂げる最後」とは、最後であると同時に、この希望の世界への道が開かれる「はじまり」であり、この「最後」において、律法、預言者を通して表された神の愛が、救いがまことに実現するのです。

モーセとエリヤは雲に包まれて居なくなってしまう、恐れる弟子たちに天からの声が聞こえました。「これはわたしの子、選ばれた者、これに聞け」
ここで、「聞け」と訳されている単語は、「聞き従う」という意味が含まれています。山上で栄光に包まれた主イエスがこれから歩むのは、十字架への道です。これからペトロたちが聞き従って歩む道は、十字架への道なのです。しかし同時に、復活へと通じる道です。その歩みを共にする中でこそ、彼らが山上で目撃した以上の光景、主イエスによる救いに与るのです。「その衣を小羊の血で洗って白くした」（ヨハネ黙示録 7:14）とある通り、主イエスの十字架上の死と復活によってこそ、ペトロたちは絶望の先の希望を知る者、罪からの赦しを知る白い衣をまとう者へと変えられることになります。それゆえに、雲の中から語りかけた神は、ペトロが仮小屋を建てて、そこにとどまることを許さなかったのです。なぜなら、自らも白く輝く命へと、神は導こうとされているからです。

わたしたち自身も、主イエスに聞き従い、主イエスと共に歩んでまいりましょう。そして希望の光で照らされた白い衣をまとう者へと変えられますように。